

令和7年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	自主的に学習するための課題を提供し、学習習慣の確立および基礎学力の向上をはかる。	学習課題に取り組めたと回答している生徒は87.1%、保護者の94.5%から家庭でも学習課題に取り組んでいたとの回答をえている。また、教員の83.3%が適切に課題を提供できたと考えている。 いずれの項目も目標値を達成しており、ほとんどの生徒が自主的に学習に取り組む習慣を確立できているとの評価である。一方、向上心旺盛な生徒ほど家庭における学習が不十分と答えている点も見逃せない。今後も取り組みを充実させていく必要がある。	ここ数年の調査においては、家庭学習課題にしっかりと取り組める生徒がほとんどであり、それが学習成績や単位修得の結果として表れている。これについては満足はいくものであるが、よりよい学習へ活かせるよう、さらに適切な課題の設定と評価が必要である。 基礎学力の向上に関しては、クラス内での個人差が著しいため、ICTの活用や家庭と連携した個別指導を継続・充実させていく必要がある。
	主体的・対話的な授業および探究的な学習を通して、学習に対する深い興味・関心・意欲を高める。	主体的・対話的な学びや探究的な学習の実践については、グループ学習等で学習意欲が高まったと答えた生徒の割合は74.2%であり、教員の多くもそれを実践できたと考えている。生徒・教職員の振り返りによると、今年度から一新した総合的な探究の時間における学習への評価が特に高い。 いずれも目標値を達成しており、今後とも生徒の状況や特性に応じた工夫をしながら、取り組みを継続していく必要がある。	日々の授業の実施内容や生徒の学習への取り組み状況を踏まえて、より主体的・対話的で深い学びとなるよう検討を続ける必要がある。 総合的な探究の時間においては、外部の機関とも連携しながら様々な取り組みを行う中で、生徒がコミュニケーション力や思考力、自己肯定感を高め、主体的な取り組みにつなげられるよう、さらに工夫する必要がある。
生徒支援	生徒会行事に主体的に取り組ませることを通して、学校生活の充実を目指す。	生徒会が主体となって学校行事の企画・運営をする体制づくり、環境づくりに努めた。 生徒会行事の取り組みについて、進んで取り組むことができたという生徒が83.8%、活動が充実していると感じている生徒は93.5%であり、生徒主体の充実した活動内容であったと考えている。 体育会では、生徒たちが試行錯誤しながら競技の内容を考え、準備・運営を行ったことは自信につながったと考える。今後もどのような活動ができるのか臨機応変に対応しながら、生徒一人ひとりが充実感がもてる学校行事となるよう、様々な支援を行っていく必要がある。	引き続き、生徒会執行部の活動を通してリーダーシップを発揮する生徒を育てること、生徒が主体的に活動に参加できる雰囲気作り、環境づくりに努めたい。 本年度の取り組みを基に、生徒自身が興味・関心を強く持てる内容で企画運営する行事を増やしたい。また学校生活の充実や自律する力の向上を目指し、日常生活での時間や物品の管理などの生活習慣の改善も企画していく。 活動準備に計画的に取り組めるとともに、一人ひとりの役割分担を明確にして責任感を養い、成功体験を味わうことで自己肯定感の向上につながる活動を目指していきたい。
	講演会や社会貢献活動・ボランティア活動を通して、自分自身の生き方や自他の尊重について考えさせる。	保護者に対しては、行事を通して自己内省や他者尊重の契機となったかとの問いを設定したところ、77.8%が肯定的な評価を寄せている。 今年度は、例年実施している社会福祉協議会や介護施設と連携した車いす補助講習会・車いす利用者の買い物補助ボランティアに加え、外部の施設と協力して、保育支援や町づくり、障がい者大会の運営補助などの社会貢献活動にも取り組んだ。また、警察関係者を講師に招き、交通安全、薬物の危険性、SNSの使い方についての講演会を開催した。 生徒がSOSを出しやすい環境づくり、相談体制の充実にも取り組むことができた。	普段の生活はもちろんのこと、人権に関する講演や授業での取り組みの中で、自他ともに大切にし尊重する態度を育てること、さらに安全安心な環境づくりを目指していきたい。 社会貢献活動については、生徒自身の希望を優先して活動している。さらに生徒自身が活動内容を考える機会を設け、活動の意義について確認できるようにしたい。また、地域の各ボランティア関係者と継続して連絡を取り合い、生徒への効果的な助言を得られる機会を増やしたい。地域イベントの運営など、学校を離れて個人でボランティアに参加する機会も大切にしていきたい。
進路支援	進路に関する行事を通して、職業意識の啓発に努め、自らの進路について考えさせる。	年度末の生徒アンケートでは、自分の進路について考えるようになったと答えた生徒は90.3%と高評価だった。また、7割の保護者が子どもの変化を感じており、ガイダンスやセミナーの実施は有効であったと考える。 主体的に進路選択をする力を育成するために、全学年を対象に6月と1月に進路ガイダンスを実施した。実際に働いている講師陣より実体験を語っていただき、分野別進路講話を聞いて、生徒はマナーとルールの違いについて考える機会を持つことができた。また、12月には全学年を対象に就職支援セミナーを実施することができた。	今後も実践的な内容で実施することによって、生徒が自分の進路について具体的なイメージを持ち、学業への取り組みや就職活動が充実するよう支援していきたい。担任教諭をはじめとする各教科担当や、外部機関と連携し、生徒の実態や進路希望に合わせてガイダンスの内容を適宜検討しながら充実した行事として継続実施していきたい。 保護者からは、丁寧な進路支援に関する感謝とともに保護者自身が進路について学ぶ機会を望む声もある。保護者への啓発、学習の機会を模索していきたい。
	将来の職業に役立つ資格の取得を目指し、少なくとも1つの資格に挑戦する。	全学年生徒が「日本語検定」受験に向けての学習に取り組んだ。今年度は、検定の受験を休日に設定したため受験しない生徒もいたが、生徒の社会的自立に向けた資質・能力の育成のためにも、生徒達の学力に配慮した学習方法を考える必要がある。ICTの活用はその可能性を秘めた方法の1つである。	学びに対する意欲の高い生徒が増えてきている。生徒の取り組み状況も良好であり、学習意欲を高揚する環境づくりを進めていきたい。 漢字検定や英語検定などの資格取得にこだわらず、ICTの有効活用等により個別最適な学びの充実を図っていきたい。